

あらゆる症状から女性を守るクリスパタス菌の最新レビュー

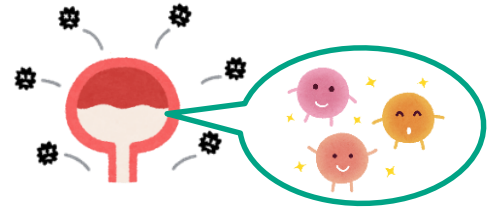
健康食品素材として市場認知が高まりつつある乳酸菌の研究は盛んに行われており、特に、近年注目を集めている女性特有の健康上の悩みや課題との関わりが明らかになりつつあります。

このレポートでは、腸内や女性の産道に存在する乳酸菌、クリスパタス菌 (*Lactobacillus crispatus*) の最新研究情報の中から、女性の健康に関連するデータを紹介します。

クリスパタス菌は尿路感染を抑制する

Chang Hyun Song et al. Proc Natl Acad Sci USA. 2022

これまでに膀胱内は無菌であると考えられていましたが、膀胱内にも微生物が定着していることが明らかになりつつあります。尿路感染症の再発と膣内フローラの関連を検証した結果、尿路感染を再発した女性の膀胱内は乳酸菌数が著しく減少していることや、尿路感染したマウスの膀胱へのクリスパタス菌の投与により尿路感染の原因となる病原性大腸菌数を減少させることが確認されました。



クリスパタス菌の経口摂取および膣への投与により細菌性膣症および膣カンジダが抑制される

R Mändar et al. Benef Microbes. 2023 Apr 18;14(2):143-152.

細菌性膣症およびカンジダ症患者にクリスパタス菌を含むカプセルを3か月間経口もしくは膣内投与したところ、膣からの投与により膣内乳酸菌の増加および病原菌の現象が確認されたほか、経口・膣内投与のいずれも外陰部のかゆみ・刺激が低減することが確認されました。この結果から、クリスパタス菌は経口・膣内のいずれの投与でも効果が期待されることが示されました。

クリスパタス菌の占有率の高い女性は妊娠高血圧症候群のリスクが低い

Xiao Li et al. mSphere. 2023 Jun 22;8(3)

健康な妊婦、妊娠高血圧症 (HDP)の妊婦それぞれの妊娠前の膣内フローラを比較したところ、HDPの妊婦のクリスパタス菌占有率が低いことや、クリスパタス菌の占有率が高い状態であることでHDPリスクが低下することが確認されました。



膣内におけるクリスパタス菌の占有率の高い女性は早産のリスクが低下する

Unnur Gudnadottir et al. Scientific Reports volume 12, Article number: 7926 (2022)

新生児の疾病・死亡の要因となる早産と膣内のフローラの関連について調査したところ、膣内フローラにおいて乳酸菌の占有率の低い女性と比較しクリスパタス菌の占有率の高い女性は早産のリスクが低いことが確認されました。乳酸菌およびクリスパタス菌の占有率が早産のリスクを予測できる可能性が示されました。

女性の健康との関わりが深いクリスパタス菌は、日本のみならず海外においても盛んに研究されており、様々な知見や効果が確認されています。女性と子どもを守るクリスパタス菌で、日々の健康サポートを心がけてみてはいかがでしょうか。

カラダにオイシイ、キツイ。

Kitiï

機能性原料の情報はHPまで！

株式会社キティー <https://www.kitii.co.jp/>
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-6-1

